

(3) 笠利地区

- ・丘陵地形の山地樹林と、東海岸沿いに集約される農地（耕地率 16%）は、地区内の約 9.5 割で自然性が高い地域です。（写真①）
- ・美しい海岸線を有し、半島一体の沿岸部珊瑚礁は国定公園に指定されています。
（写真②,③）
- ・公園施設としては、運動公園や観光交流施設の奄美パーク（県）、あやまる観光公園などがあります。（写真④～⑧）
- ・農村公園や漁港緑地など身近な公園施設も点在しています。（写真⑨,⑩）
- ・国道や県道の幹線道路沿いに路傍植栽の緑地が整備されています。（写真⑪,⑫）
- ・集落毎に屋敷林が見られ、其々の集落景観を形成しています。（写真⑬,⑭）
- ・住居の生垣にも地域性のある樹種が多く見られます。（写真⑮,⑯）
- ・国指定の宇宿貝塚、赤木名城など歴史的文化的性の高い緑もあります。（写真⑰,⑱）
- ・奄美をイメージする緑が多く見られます。（写真⑲～⑳）



①丘陵地の農地風景



②土浜～節田海岸と丘陵地形の景観



③用集落と海岸線の景観



④あやまる岬からの景観



⑤地域のレクリエーションの場
あやまる観光公園



⑥あやまる岬展望所



⑦スポーツ・レクリエーションの拠点である太陽ヶ丘公園



⑧



⑨集落の憩いの場（土浜農村公園）



⑩身近なレクリエーションの場
宇宿漁港緑地公園



⑪幹線道路沿いの修景植栽



⑫幹線道路沿いの修景植栽



⑬集落をまもる屋敷林（土盛）



⑭集落をまもる防風林内の様子



⑮街並み環境整備を推進している地区の拠点（赤木名）



⑯集落内の生垣の景観（赤木名）



⑰前田川河口から見る赤木名城跡



⑱代官所跡地の石垣と生垣（赤木名）



⑲ソテツの群生（あやまる）

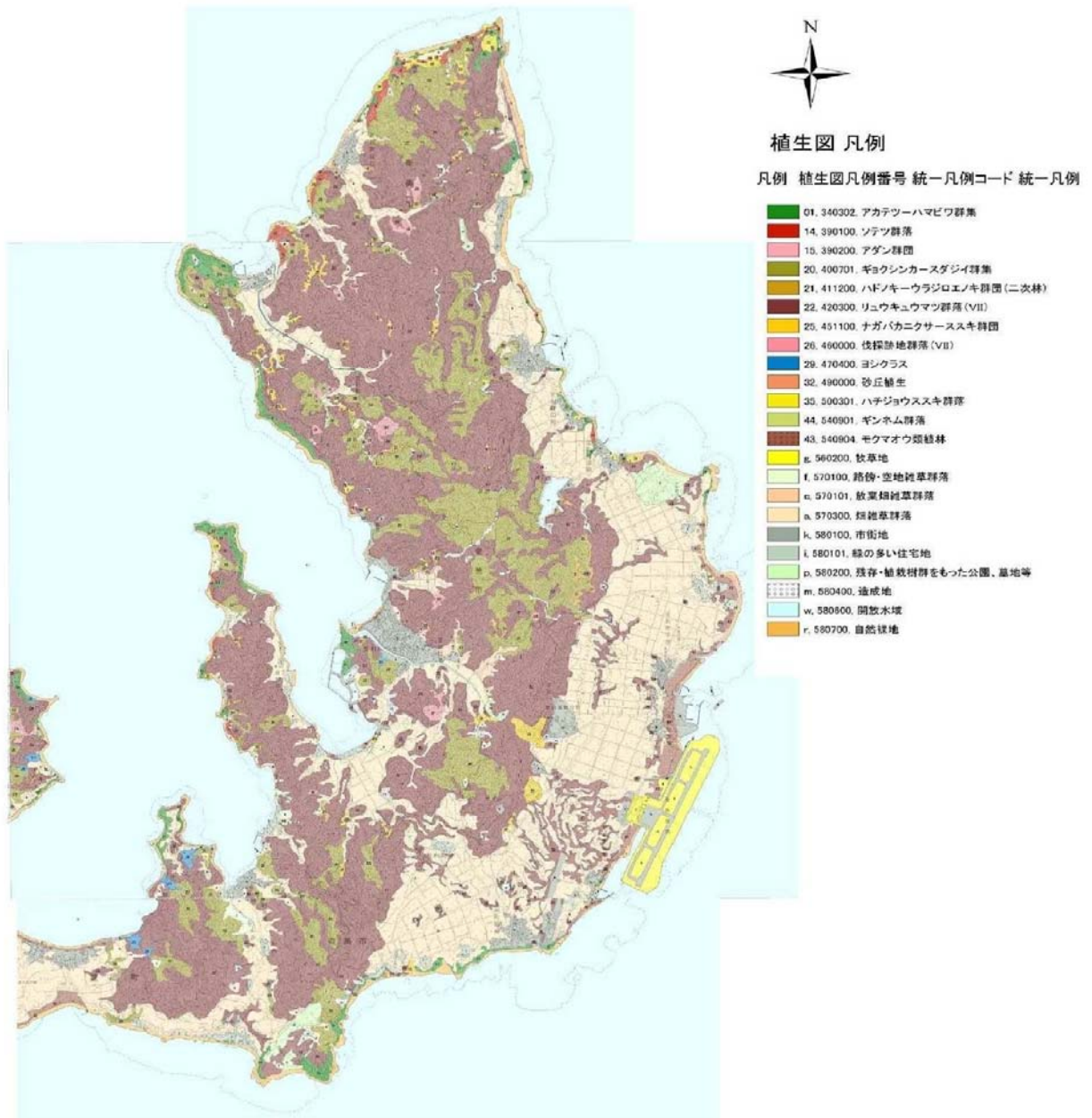


⑳用岬のアダン林



㉑あやまる岬駐車場と海岸線の景観

図 笠利地区の植生図



出典) 環境省 平成 21 年発行 第 6 回・第 7 回植生調査による

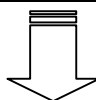
地区の山林の大部分は、リュウキュウマツ林で、丘陵部にスダジイ林が分布しています。集落周りには屋敷林が、海岸線にはモクマオウ等の防風林が分布しています。

3. 現況特性と課題の解析

本市の概況及び緑地の現況に基づき、現況の特性と課題の解析を以下に示します。

【自然特性と緑地】
<ul style="list-style-type: none">・市街地・集落共に海に面し中小河川沿いに立地し、背後に連なる山地の身近な自然に囲まれ、海からの風を感じる地形特性となっています。・山地の自然植生が残るのは、深山部の金作原や住用川・川内川の上流域で、ヒカゲヘゴの群生や亜熱帯性照葉樹林の様相を呈し、貴重な生物相の生息地でもあります。・身近な自然は、スタジイやリュウキュウマツ等遷移途中の二次林であります。・市街地内は、都市化により自然や農地が減少しています。・街中などに保存樹などの巨木が見られますが、面的緑地は少ない状況です。・公園緑地等は市街地において不足気味であり、施設の老朽化も目立ち、安全性の課題や、植栽樹種が少ない、緑量の不足、機能性の不足なども見られます。

【社会的特性】
<ul style="list-style-type: none">・本市は、人口が県内8位で群島内の約4割を占める中核都市です。昭和60年を境に減少している一方、核家族化により世帯数は増加傾向にあります。また、中心市街地に集中し、人口密度の高いDID地域になっています。・集落構成には「島建て村立」といわれ、聖林（神山）から神の道を通り海浜に下りるという構図があり、集落内にはミャー（広場）がつくられたという歴史的特性があります。・伝統的地場産業として大島紬が栄えましたが、近年は低迷し第3次産業への転換が進行している状況です。・伝統的な建造物として、高倉やナバ石垣があり、わずかながら残存しています。・国指定史跡など歴史的文化的性の高い文化財や、集落もあり景観的な整備も進められています。



機能別の課題を整理します。

【環境保全機能】
<ul style="list-style-type: none">・市街地や集落の骨格を形成する湾岸や河川、道路の自然環境の維持・改善と親しみやすさの向上・身近な自然は、市街地や集落、歴史的風土を支える緑、生物相の生息地、環境教育の貴重な緑として保全・活用・市街地内は、社寺林や保存樹等の巨木、公園の緑、街路樹等を快適な生活環境に資する緑として保全し、公共空間や民間建築物等の緑化の推進・集落内の屋敷林や防風林は、集落環境を守り改善する緑として保全・創出・郊外や集落周りに立地する農地や遊休地の保全・活用

【レクリエーション機能】

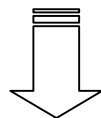
- ・自然と触れ合える緑地や海辺の保全・活用
- ・身近な利用性の高い公園の配置や既存公園のバリアフリー化、施設の長寿命化
- ・スポーツ・レクリエーション施設の機能向上と広域的利用にも対応する施設の充実
- ・市街地の本港地区（マリントウン地域）は、隣接する区画整理事業と連携し、都市拠点・観光交流拠点として整備
- ・中小河川を軸として公園や樹林との水と緑のネットワーク化を図り、緑道の整備や環境改善

【防災機能】

- ・地震等の災害時の避難場所や施設の充実、活動拠点となる多目的な公園緑地の創出
- ・市街地の密集住宅地や老朽家屋、狭隘道路における避難経路・延焼防止となる緑地の保全・創出

【景観形成機能】

- ・名瀬湾から形成される身近な自然との市街地景観や、海岸線や河川周辺の景観等地区を代表する景観や視点場の保全・活用・創出
- ・地域に伝わる固有景観の再現による地域性の景観形成
- ・街路樹や路傍植栽の保全育成や、未整備の道路空間の緑化推進



奄美市の緑の特徴

【自然的・社会的特性から】

名瀬湾等入江を基軸に市街地や集落を取り巻く山地樹林景観と、島建て村建ての歴史性が一体となり、自然との共生が形成されています。この身近な自然を保全するとともに、ネットワークを形成する河川や道路の環境保全や景観形成の機能充実が望まれます。

【緑地の機能から】

再整備できる公園緑地が点在し、スポーツ・レクリエーションの充実、憩いの場の創出など市民のニーズに応じた整備に積極的に活用できます。
しかし、身近な街区公園等が小規模であり、市街地内の環境保全や防災機能に資する緑地と併せ新たな公園の整備も望まれます。

4. 緑に関する市民意向調査

1) 市民意向調査の概要

【平成 23 年 1 月実施 配布数 615 通 回収 496 通 回収率 80%】

① 回答者のプロフィール

- 性別
男性 60%、女性 40%
- 年代：20 代が少なく、50～60 代が多い
20 代 6%、30 代 12%、40 代 15%、50 代 24%、60 代 26%、70 代 17%
- 地区別
名瀬地区 61%、住用地区 12%、笠利地区 27%
- 奄美市への居住年数
30 年以上が 62%、次いで 20～30 年が 14%

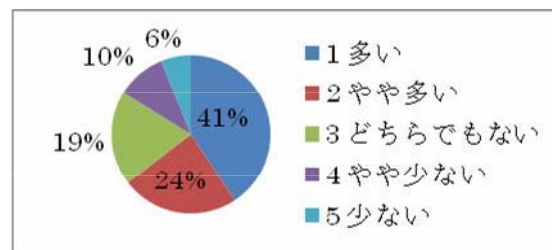
2) 市民意向調査による緑への意識

① 緑の現状について

問 5-1 奄美市の「緑」は多いと思いますか。

問 5-2 奄美市の「緑」は最近減ったと感じますか。増えたと感じますか。

- 緑の量は多い (41%)
最近の変化はあまり感じない (43%)
やや減っている (34%)

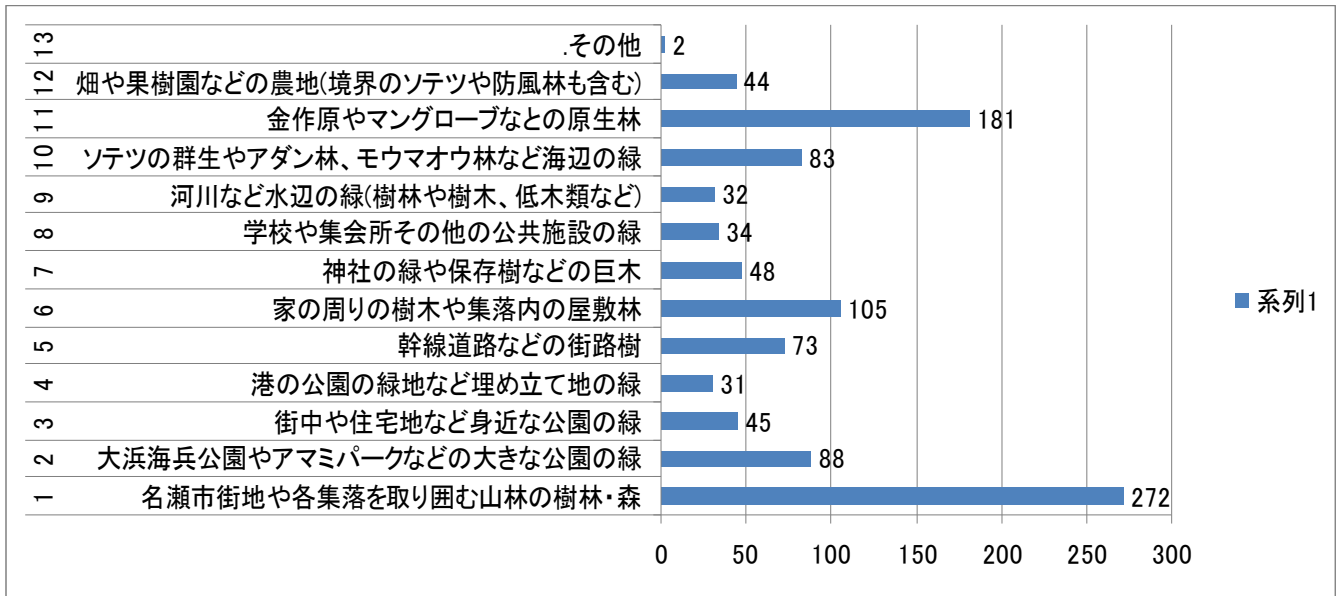


※全体の緑の量は多いと思うが、街中の緑は少ないという意見がありました。最近ではやや減っていると感じていると思われます。

問5-3 奄美市の特色ある「緑」として思い浮かぶものは何ですか

- 市街地や集落を取り囲む山林の樹林・森 (26%)
金作原やマングローブなどの原生林 (17%)
特に明記するものは、
シイノキ、ガジュマル、ソテツ、ハイビスカスなど

※市街地や集落周りの樹林・森など、身近な緑に親しみやシンボル性を感じていると思われます。



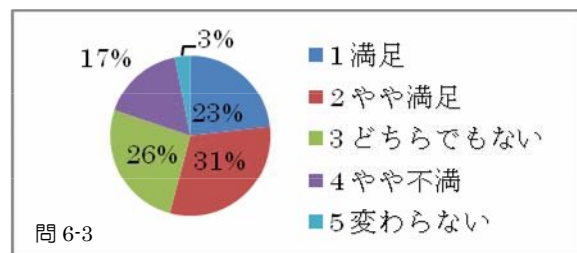
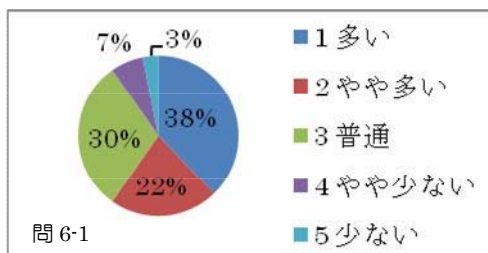
問 6-1 住まい周辺の「緑」は多いと思いますか。

問 6-2 住まい周辺の「緑」の量は、住み始めたころと変化しましたか。

問 6-3 奄美市や住まい周辺の「緑」に満足していますか。

問 6-4 「緑」に不満な点は何ですか。(問 6-3 の不満、やや不満の方)

- 住まい周りの緑は多い (38%)
- 住み始めてからは、変わらない (54%)
- 「緑」には、やや満足 (31%)
- 草花や樹木の種類が少なく見た目が単調 (30%)



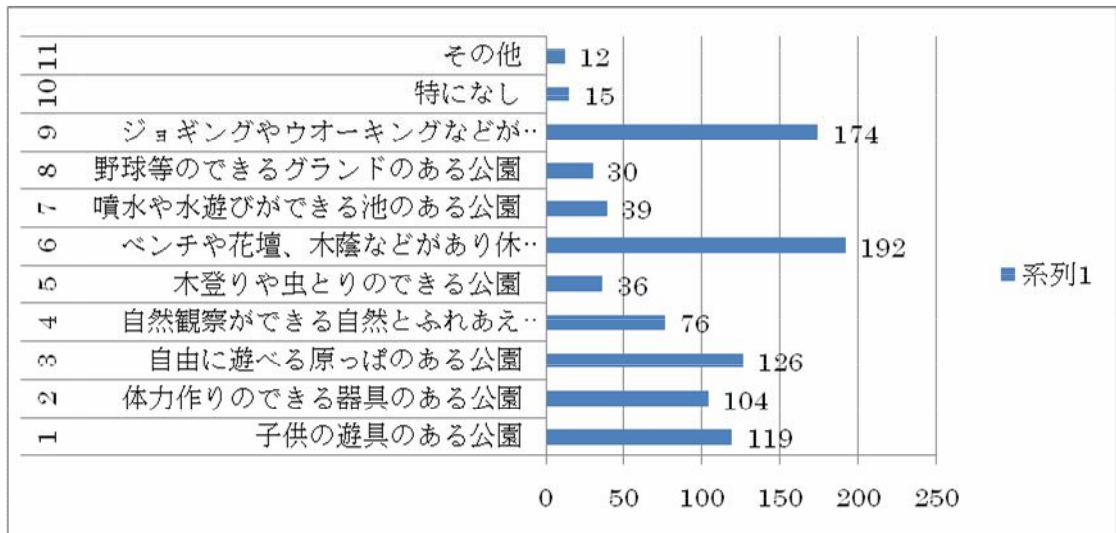
※大半の方は、住まい周辺の緑の量に満足しています。不満がある方は、草花や樹木の種類が少ないことや、宅地化などにより緑が少なくなったと感じています。

問 7 身近にどのような公園があるといいと思いますか。

② 公園や緑のまちづくりについて

- ベンチや花壇、木陰などがあり休憩のできる公園 (21%)
- ジョギングやウォーキングなどが楽しめる公園 (19%)

※公園の好みは、木陰で休憩のできる憩いの場があることや、ジョギングやウォーキング、体力づくりができることなど健康志向のひとが多いと思われます

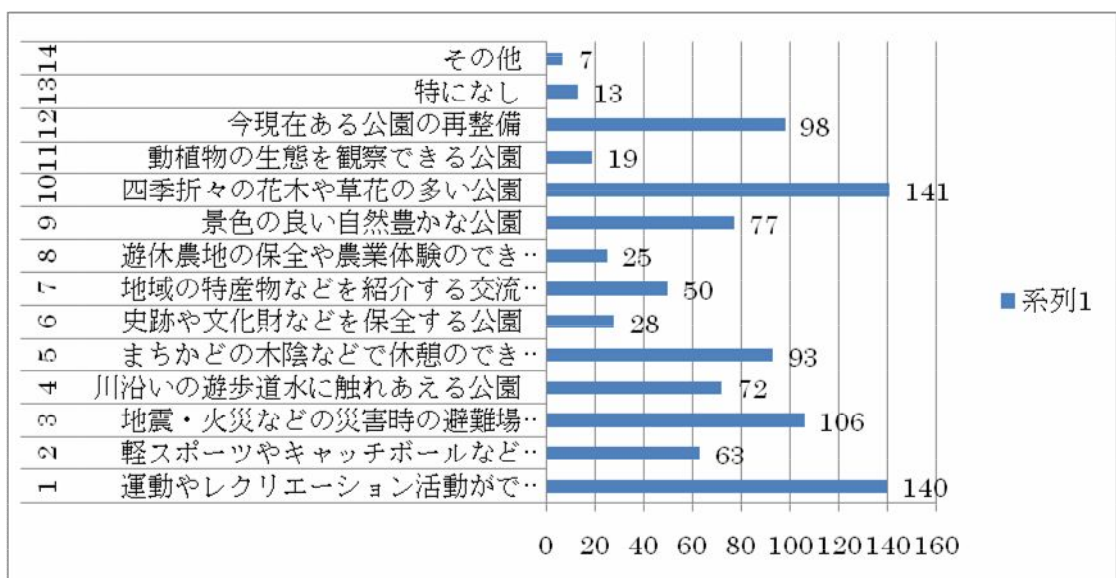


問 8 奄美市に今後必要な公園や広場としてどんな公園がいいと思いますか。

● 四季折々の花木や草花の多い公園 (15%)

運動やレクリエーション活動ができる多目的広場のある公園 (15%)

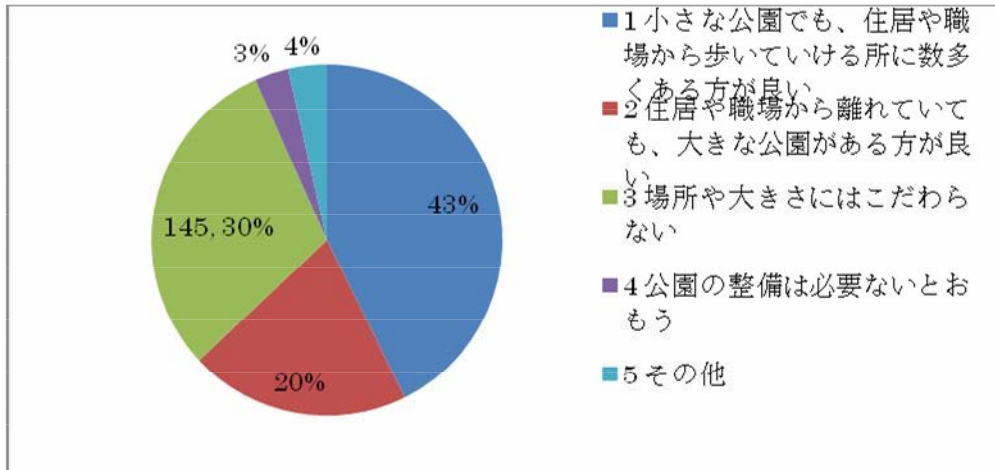
※必要な公園としては、四季折々の花木や草花の多い公園、運動やレクリエーションの広場という意見がほぼ同数で、次いで災害時の避難場所にもなる公園、今ある公園の再整備というように、自分の趣向を望む一方現実的な機能性も考えていると思われます。



問9 公園整備を行う場合、その大きさや配置についてお聞きします。

- 小さな公園でも、住居や職場から歩いていける所に数多くある方が良。(43%)

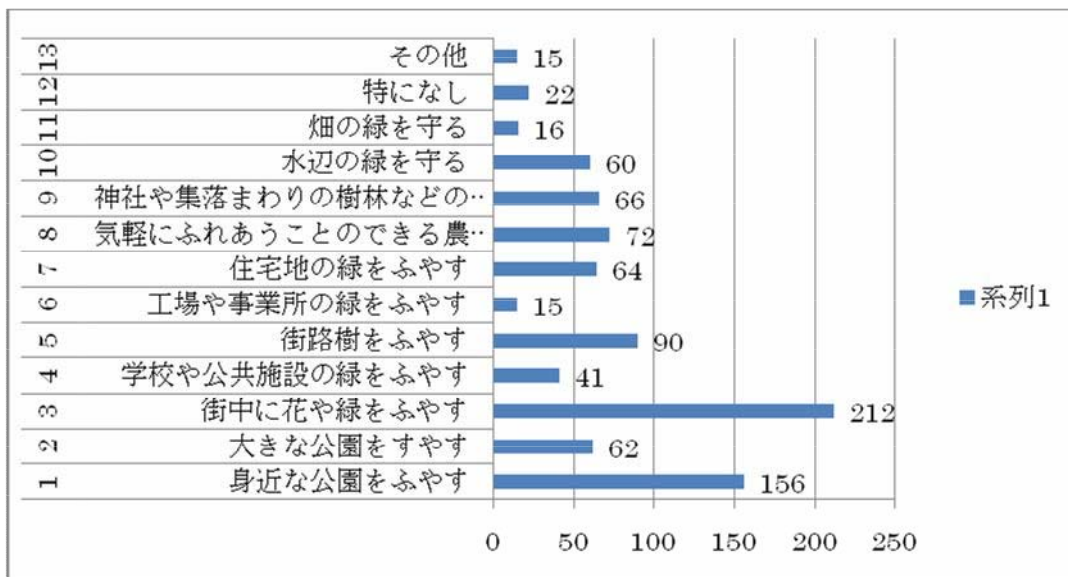
※ 日常的に利用できる身近な公園への志向がうかがえます。



問10 「緑」豊かな奄美市にするために市に期待することは何ですか。

- 街中に花や緑をふやす (24%)
- 身近な公園をふやす (18%)

※ 街中への潤いと身近な利便性が望まれていると思われます。



問 11 「緑」を守り、増やすために現在あなたが実践している活動は何ですか。

問 12 「緑」を守り、増やすために今後あなたが実践したい活動は何ですか。

- 自宅のバルコニーや玄関先を花や鉢植えで飾る (26%、20%)
- 身近な公園・道路・河川・などの除草清掃活動を行う (19%、18%)

※ 共に自宅前の花や鉢植えによる装飾、身近な公園や道路、河川などの除草・清掃活動への参加、家庭菜園をつくるという意見が多く、自宅周りの花による修景への関心が高く、地域の活動にも積極的であると思われます。

